

鉄結合能キット

# アテリカCH TIBC

## ■ 全般的な注意

- 本品は体外診断用医薬品ですので、それ以外の目的に使用しないでください。
- 本品の測定結果は、患者の治療歴、臨床症状その他関連する他の検査結果等を考慮して総合的に判断ください。
- 電子添文に記載されている以外の使用方法については保証しません。
- ヒト由来成分を含む試薬は、感染性のあるものとして使用ください。
- 使用する機器の電子添文及び取扱説明書をよく読んでから使用ください。
- 適切な保護手袋、保護衣、保護用眼鏡及び顔防衛マスクを使用し測定ください。

## ■ 形状・構造等（キットの構成）

構成成分	構成試薬	ウェル	成分
パック1 (P1)	第一試薬	1,2	クロマズロールB、塩化第二鉄、セトリミド
パック2 (P2)	第二試薬	1,2	重炭酸ナトリウム緩衝液

## ■ 使用目的

血清中の総鉄結合能（TIBC）の測定

## ■ 測定原理

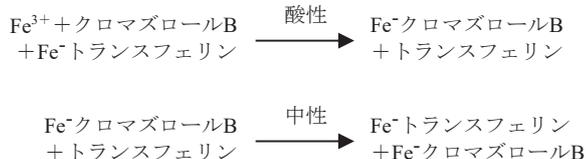
本品は、比色法を用いて2ステップ反応により検体中の総鉄結合能（TIBC）濃度を求めます。

<第一反応>

検体に、第一試薬（鉄結合色素（クロマズロールB）及び塩化第二鉄を含む酸性緩衝液）を添加すると、鉄がトランスフェリンから遊離し、クロマズロールBと結合し有色のキレートを形成します。この有色キレートは、検体中及び第一試薬中の過剰鉄の両方と形成します。

<第二反応>

第二試薬（中性緩衝液）を添加すると、pHが変化し、トランスフェリンの鉄親和性が大幅に増加します。検体中のトランスフェリンは、キレートから鉄を奪い取り、鉄と急速に結合します。キレートの吸光度減少量は、検体中のTIBC濃度に比例します。



## \* ■ 操作上の注意

本品はAtellica CH生化学自動分析装置（Atellica CH）及びAtellica CI生化学免疫自動分析装置（Atellica CI）の専用試薬です。

本電子添文に示した試験は、Atellica CHを用いて実施しました。

### 1. 測定試料の性質、採取法

#### (1) 検体の性質、採取法

- 本品の測定には血清検体を使用ください。
- 検体を採取する際は、感染予防措置を講じてください。すべての検体は感染性があるものとして取り扱ってください<sup>1</sup>。
- 静脈穿刺により血液検体を採取する際の推奨手順に従ってください<sup>2</sup>。
- 検体の採取及び処理については、検体採取器具の取扱説明書に従ってください<sup>3</sup>。
- 血清検体は遠心分離する前に完全に凝固させてください<sup>4</sup>。
- 採血管は常に栓をしてください<sup>4</sup>。
- 明らかに汚染されている検体は使用しないでください。
- 検体を機器に装填する前に、検体中にフィブリン又は浮遊物や、気泡がないことを確認してください。

- CLSI及び検体採取器具製造元の推奨に従い、遠心分離により浮遊物を除去してください<sup>4</sup>。
- 適切な検体容器の詳細については、機器画面上のオンラインヘルプを参照ください。

#### (2) 検体量

1回の測定に必要な希釈検体量は24  $\mu$ Lです。この検体量には、検体容器のデッドボリューム、2重測定や再測定等を実施する際に追加で必要になる量は含まれていません。最小必要量を決定する際の情報については、機器画面上のオンラインヘルプを参照ください。

#### (3) 検体の保存

- 遠心分離後の検体は、室内温度で4日間、2~8°Cで7日間保存できます。また、-20°Cで2ヶ月間凍結保存できます<sup>5</sup>。
- 保存検体は室内温度に戻してから使用ください。

上記の取り扱い及び保存情報は、製造元のデータ又は参考資料に基づいています。利用可能な参考文献や独自の試験結果を用いて別の安定性基準を設定する場合は、各検査室の責任において行ってください。

#### (4) 検体の輸送

検体を輸送する際は、臨床検体及び病原体の輸送に関して適用される各国の規制に従い、検体を梱包・表示ください。

## 2. 妨害物質・妨害薬剤

本品は、溶血、黄疸、乳びの影響が10%以下になるよう設計されています。CLSI EP7-A2に従い、下表に示した濃度で評価しました<sup>6</sup>。誤差はコントロール検体（妨害物質なし）とテスト検体（妨害物質あり）の測定結果の差をパーセントで示したものです。誤差が10%を超える場合は妨害物質の影響があると考えられます。測定結果はこの誤差を元に修正しないでください。

物質	物質濃度 (mg/dL)	TIBC濃度 ( $\mu$ g/dL)	誤差 (%)
ヘモグロビン（溶血）	1000	413	-1
	1000	631	-3
抱合型ビリルビン（黄疸）	25	428	-3
	19	619	-1
非抱合型ビリルビン（黄疸）	25	428	-1
	25	587	-5
Intralipid（乳び）	375	430	10
	250	608	10
トリグリセライド（乳び）	1000	412	7
	500	627	9

各検査室で得られる測定結果は、示したデータと異なる場合があります。

## ■ 用法・用量（操作方法）

### 1. 試薬パックの準備

試薬パックはすべて液状のため、そのまま使用ください。

### 2. 必要な器具・器材・試料等

- Atellica CH 生化学自動分析装置又はAtellica CI生化学免疫自動分析装置
  - アテリカCH 生化学キャリブレータ（SPCL）：凍結乾燥ヒト血清
  - アテリカCH 希釈液
  - 市販の精度管理物質
- その他の必要な器具・器材等については機器の取扱説明書を参照ください。

### 3. 機器の準備

機器の保冷庫に十分な数の試薬パックが装填されていることを確認ください。試薬パックの装填については、機器画面上のオンラインヘルプを参照ください。

#### 4. 校正

本品の校正には、アテリカCH 生化学キャリブレータ (SPCL) を使用してください。使用方法についてはアテリカCH 生化学キャリブレータ (SPCL) の取扱説明書を参照ください。

##### ・ 校正間隔

以下の場合において、校正を実施ください。

- ・ 基本試薬パックのロットが変更となったとき
- ・ 校正済みの試薬ロットのロット校正間隔が終了したとき
- ・ 校正済みの試薬パックのバック校正間隔が終了したとき
- ・ 精度管理の結果、校正が必要となったとき
- ・ メンテナンス又は整備の後の精度管理の結果、校正が必要となったとき

機器装填後の試薬安定性期間の終了時には、装填されている試薬パックを新しい試薬パックに交換ください。ロット校正間隔を過ぎない限り、再校正は不要です。

##### ・ Atellica CH

ロット校正間隔	: 180日
バック校正間隔	: 7日
機器装填後の試薬安定性期間	: 7日

\*

##### ・ Atellica CI

ロット校正間隔	: 180日
バック校正間隔	: 5日
機器装填後の試薬安定性期間	: 5日

ロット校正間隔、バック校正間隔に関する情報については、機器画面上のオンラインヘルプを参照ください。

各検査室の精度管理プログラム及び手順によっては、より頻繁に校正が必要な場合もあります。

#### 5. 機器装填後の安定性

- \* 試薬パックは、機器に装填後、Atellica CHでは7日間、Atellica CIでは5日間安定です。
- ・ 機器装填後の安定性期間が過ぎた試薬は廃棄ください。

#### \*6. 精度管理

本品の精度管理については、既知濃度の精度管理物質を少なくとも2濃度（低濃度・高濃度）使用ください。各検査室の状況に応じて精度管理物質を追加することができます。精度管理物質は、精度管理物質の取扱説明書に従い使用ください。

表示値については、コントロール表示値シートを参照ください。

以下の場合には新たに精度管理を実施ください。

- ・ 校正実施の後
- ・ 新しいロットの試薬を使用する場合
- ・ トラブルシューティングを実施した後の測定結果が病態や症状に合わない場合

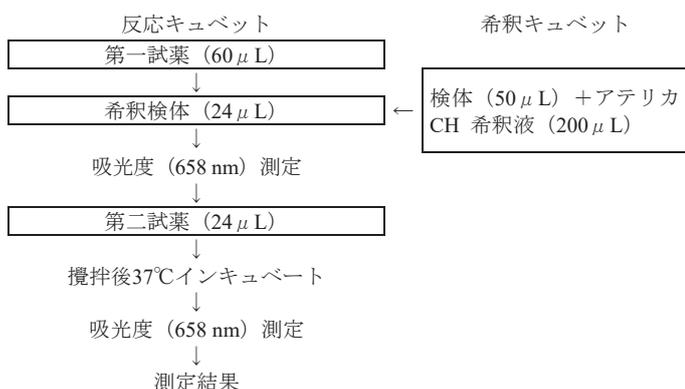
各検査室の精度管理手順により、より頻繁に精度管理の実施が必要となる場合もあります。

測定値が、機器の期待値の範囲内又は適切に実施された検査室内の精度管理法によって設定した範囲内であるとき、性能は基準に達しています。得られた結果が許容範囲から外れた場合は、検査室の精度管理手順に従い対応ください。精度管理の情報を入力に関しては、機器画面上のオンラインヘルプを参照ください。

精度管理結果が許容範囲から外れた場合は、結果を報告せず、検査室の手順に従い、是正措置を実施ください。推奨手順については、機器画面上のオンラインヘルプを参照ください。

#### 7. 測定法

機器により次の動作が自動的に実施されます。



測定時間：10分

## ■ 測定結果の判定法

### 1. 結果の判定法

機器画面上のオンラインヘルプに記載の計算スキームを使用し、結果を算出します。機器は設定画面で定めた単位に応じて、結果を  $\mu\text{g/dL}$  (慣用単位) 又は  $\mu\text{mol/L}$  (SI単位) で報告します。  
換算式： $\mu\text{g/dL}$  (慣用単位)  $\times 0.179 = \mu\text{mol/L}$  (SI単位)  
不飽和鉄結合能 (UIBC) を求める際は、次の計算式を使用ください。  
 $\text{TIBC} - \text{鉄} = \text{UIBC}$  ( $\mu\text{g/dL}$  又は  $\mu\text{mol/L}$ )。

### \*2. 参考基準範囲

CLSI EP28-A3cに従い、成人健常者の参考基準範囲をAtellica CHを用いて設定し、Atellica CIを用いて検証しました<sup>7</sup>。  
TIBCの参考基準範囲は、250~425  $\mu\text{g/dL}$ です<sup>8</sup>。  
他の検査薬と同様に、参考基準範囲は各検査室において設定ください。上記の値は参考値として取り扱ってください<sup>7</sup>。

### 3. 判定上の注意

本品は、ヒト血清中のTIBC測定にのみ使用ください。

## ■ 臨床的意義

TIBC測定は、貧血の診断及び治療に使用します<sup>9,12</sup>。

## ■ 性能

### 1. 測定範囲

40~670  $\mu\text{g/dL}$

得られた結果が測定範囲外の場合はフラグが表示されます。

### 2. 性能

■ 用法・用量 (操作方法) の測定法により、感度・正確性・同時再現性の各試験を行なった場合、下記の規格値に適合します。

#### (1) 感度試験

キャリブレータ (別売) とブランクを測定したときの吸光度の差は、130 mAU以上です。

#### (2) 正確性試験

濃度既知管理検体を用いて測定するとき、その測定値は表示値の±20%以内です。

#### (3) 同時再現性試験

濃度既知管理検体を複数回同時に測定するとき、その変動係数 (CV) は10%以下です。

### \*3. 相関性

CLSI EP09cに従いDeming直線回帰を使用して求めました<sup>13</sup>。Atellica CI (y) と Atellica CH (x) の機器相関性の結果は以下のとおりです。

検体	回帰式	濃度範囲 ( $\mu\text{g/dL}$ )	N <sup>※1</sup>	r <sup>※2</sup>
血清	$y = 0.98x + 5 \mu\text{g/dL}$	61~609	107	0.998

※1 検体数

※2 相関係数

相関性は、試験デザイン、比較対象の測定法、検体母集団により異なるため、各検査室で得られる測定結果は、示したデータと異なる場合があります。

### \*4. LoB、LoD

CLSI EP17-A2に従い実施しました<sup>14</sup>。本品は、検出限界 (LoD) がブランク上限 (LoB) より大きく40  $\mu\text{g/dL}$ 以下になるよう設計されています。LoDは、95%の確率で検出可能なTIBCの最低濃度に相当します。Atellica CHにおいて、ブランク検体60測定及び低濃度検体60測定による総数120測定を行った結果、本品のLoDは9  $\mu\text{g/dL}$ 、LoBは6  $\mu\text{g/dL}$ と算出されました。Atellica CIにおいて、ブランク検体225測定及び低濃度検体225測定による総数450測定を行った結果、本品のLoDは17  $\mu\text{g/dL}$ 、LoBは13  $\mu\text{g/dL}$ と算出されました。各検査室で得られる測定結果は、示したデータと異なる場合があります。

### 5. 標準物質のトレーサビリティ

本品はCERI 鉄標準液 (JSCC) にトレーサビリティを有しています。キャリブレータの値は上記の標準物質にトレーサビリティを有しています<sup>15</sup>。

## ■ 使用上又は取扱い上の注意

### 1. 取扱い上の注意

- ・ 検体及びヒト由来成分を含む試薬は、HIV、HBV、HCV等の感染のおそれがあるものとして取り扱いください。検査にあたっては感染の危険を避けるため使い捨て手袋を着用し、また口によるピペッティングを行わないでください。
- ・ 試薬が誤って眼や口に入った場合には、水で十分に洗い流す等の応急処置を行い、必要があれば医師の手当等を受けてください。
- ・ 次の試薬に関する危険有害性情報、注意事項を示します。

	第一及び第二試薬は、5-クロロ-2-メチル-4-イソチアゾリン-3-オン及び2-メチル-2H-イソチアゾール-3-オン (3:1) を含有しています。
	H317 P280, P272, P302 + P352, P333 + P313, P363, P501
	警告： アレルギー性皮膚反応を起こすおそれがあります。
	保護手袋、保護衣、保護用眼鏡及び顔防御マスクを着用ください。汚染された作業衣は作業場から出さないでください。皮膚に付着した場合、石けんと多量の水で洗ってください。皮膚刺激又は発疹が生じた場合、医師の診断/手当を受けてください。汚染された衣類を再使用する場合には洗濯してください。内容及び容器は、地方自治体及び国の規制に従い廃棄ください。

## 2. 使用上の注意

- 未開封の試薬パックは、2～8℃で保存した場合には製品に記載されている使用期限まで安定です。
- ラベルに記載された使用期限を過ぎた製品は使用しないでください。
- 同一ロットであっても、試薬の注ぎ足しはしないでください。

## 3. 廃棄上の注意

- 検体中にはHIV、HBV、HCV等の感染性のものが存在する場合がありますので、廃液、使用済み器具等は、次亜塩素酸ナトリウム（有効塩素濃度1,000 ppm、1時間以上浸漬）又はグルタールアルデヒド溶液（2%、1時間以上浸漬）による消毒処理、あるいはオートクレーブ（121℃、20分以上）による滅菌処理を行ってください。
- 試薬や検体等が飛散した場合には、拭き取り及び消毒を行ってください。
- 危険性のある試薬又は感染性廃棄物は、検査室の基準に従い廃棄ください。試薬及び器具等を廃棄する場合には、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、水質汚濁防止法等の規定に従い処理ください。

## ■ 貯蔵方法・有効期間

貯蔵方法：2～8℃

有効期間：12ヶ月（使用期限は外箱に表示）

## ■ 包装単位

	品名	シーメンスコード
アテリカCH TIBC	800テスト用	11097525
P1（第一試薬）	4本	
P2（第二試薬）	4本	

〈別売〉

アテリカCH 生化学キャリブレータ（SPCL）	11099438
10×5.0 mL	

アテリカCH 希釈液	11099300
2×1.5 L	

その他の包装単位につきましては、弊社までお問い合わせください。

## ■ 主要文献

- Clinical and Laboratory Standards Institute. *Protection of Laboratory Workers from Occupationally Acquired Infections; Approved Guideline—Fourth Edition*. Wayne, PA: Clinical and Laboratory Standards Institute; 2014. CLSI Document M29-A4.
- Clinical and Laboratory Standards Institute. *Procedures for the Collection of Diagnostic Blood Specimens by Venipuncture; Approved Standard—Sixth Edition*. Wayne, PA: Clinical and Laboratory Standards Institute; 2007. CLSI Document GP41-A6.
- Clinical and Laboratory Standards Institute. *Tubes and Additives for Venous and Capillary Blood Specimen Collection; Approved Standard—Sixth Edition*. Wayne, PA: Clinical and Laboratory Standards Institute; 2010. CLSI Document GP39-A6.
- Clinical and Laboratory Standards Institute. *Procedures for the Handling and Processing of Blood Specimens for Common Laboratory Tests; Approved Guideline—Fourth Edition*. Wayne, PA: Clinical and Laboratory Standards Institute; 2010. CLSI Document GP44-A4.
- Young DS. *Effects of Preanalytical Variables on Clinical Laboratory Tests*. 3rd ed. Washington, DC: AACC Press; 2007:570.
- Clinical and Laboratory Standards Institute. *Interference Testing in Clinical Chemistry; Approved Guideline—Second Edition*. Wayne, PA: Clinical and Laboratory Standards Institute; 2005. CLSI Document EP7-A2.

- Clinical and Laboratory Standards Institute. *Defining, Establishing, and Verifying Reference Intervals in the Clinical Laboratory; Approved Guideline—Third Edition*. Wayne, PA: Clinical and Laboratory Standards Institute; 2010. CLSI Document EP28-A3c.
- Burtis CA, Ashwood ER. *Tietz Fundamentals of Clinical Chemistry*. 5th ed. WB Saunders Company; 2001:992.
- Burtis CA, Ashwood ER. *Tietz Fundamentals of Clinical Chemistry*. 5th ed. Philadelphia, PA: WB Saunders Company; 2001:992.
- Clinical and Laboratory Standards Institute (formerly NCCLS). *Determination of Serum Iron and Total Iron Binding Capacity and Percent Transferrin Saturation; Approved Standard*. NCCLS Document H17-A. Wayne, PA: Clinical and Laboratory Standards Institute; 1998.
- Starr RT. Use of an alumina column in estimating total iron-binding capacity. *Clin Chem*. 1980;26 (1) :156-158.
- Gambino R, Desvarieux E, Orth M. The relation between chemically measured total ironbinding capacity concentrations and immunologically measured transferrin concentrations in human serum. *Clin Chem*. 1997;43:2408-2412.
- Clinical and Laboratory Standards Institute. *Measurement Procedure Comparison and Bias Estimation Using Patient Samples; Approved Guideline—Third Edition*. Wayne, PA: Clinical and Laboratory Standards Institute; 2018. CLSI Document EP09c-ed3.
- Clinical and Laboratory Standards Institute. *Evaluation of Detection Capability for Clinical Laboratory Measurement Procedures; Approved Guideline—Second Edition*. Wayne, PA: Clinical and Laboratory Standards Institute; 2012. CLSI Document EP17-A2.
- Data on file at Siemens Healthcare Diagnostics.

## ■ 問い合わせ先

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社  
カスタマーケアセンター

\*電話：03-4582-5520

## ■ 製造販売元

シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社  
東京都品川区大崎1-11-1 ゲートシティ大崎ウエストタワー

輸入

11097525M1\_01 (CH: 11110143\_EN Rev. 02, 2019-11,  
CI: 11642820\_EN Rev. 02, 2022-12)